



にこスマたより



『NPO法人にこスマ九州』は小児がん経験者のための支援団体です。



ごあいさつ

2009年から活動を開始した「にこにこスマイルキャンプin九州(現NPO法人にこスマ九州)」は、翌2010年から春と夏に年2回のキャンプを開催しており、次の夏キャンプで10回目を迎えます。私は、縁あって、この活動に最初から参加させていただいていますが、キャンプは回を重ねる毎に、進化してきているように思います。その大きな一つが、最初は、キャンプの参加者だった小児がん経験者が、次には参加者のサポーターとなり、さらに、企画者になってきているということです。

随分前のことです。小児がんの子どもたちが入院する病棟で、成人に近い年齢になったA君が退院する前にステーションにやってきて、「自分と同じ病気をした人が、どんなふうに暮らしているのか知りたい、学校ではどんなふうか、どんな仕事をしているのか、同世代の人と話がしたい」と真剣な表情で話をされたことを覚えています。その時の私は、`がんの子どもを守る会、があることを紹介しましたが、それ以上のことはあまり伝えられませんでした。医療場面で看護師は、他の子どもたちから教えてもらったことを手助けにして、治療を受けている小児がんの子どもに必要なことを伝えていますが、それには多くの限界があります。子どもたちが治療をしながら、もしくは治療後に、自分の住む場所で家族と暮らし、学び、遊び、友と語り、恋愛をして、やがて大人になっていく時に、そこでどのような体験をするのか、壁にぶつかった時にどんなふうにクリアすればいいのか、それらのことを、身をもって伝えられるのは、同じ経験をした人です。`普段できないことをしたい、`1年ぶりの友だちに会いたい、`話したい、など、キャンプに参加する人達の思いや理由は様々です。キャンプでは、参加している子どももサポーターとなっている小児がん経験者もお互いに、学校のこと、就職のことなど日頃の思いや体験を語っている場面を諸処でみかけます。キャンプは、`自分が躓いたところで後の人が躓かないように、`自分が受けた助けを他の人に、と、そんな思いが集まった場所だと感じます。そして、サポーターとそのサポートを受ける子どもとの関係は、決して一方的なものではなく、子どもたちから、たくさん助けられたり、癒されたり、励まされているとも感じます。参加している子どもたちのたくさんの喜びや笑顔が、企画者やサポーターとなった人々を支えています。キャンプ立ち上げ当初、`にこにこスマイルキャンプ、という名前に、`にこにこ、もスマイル、も同じ意味じゃない」と言った友人がいます。それもそうだと思うつつ、`それくらい笑顔がいっぱいのキャンプだよ、と心の中で、思い返した覚えがあります。次のキャンプも、たくさんの笑顔に会えますように、そして、この活動の輪が広がっていきますように。

なお、この活動は、小児がん経験者、医療従事者・関係者、関係協力施設、企業、新聞社、個人など多くの方々の援助によって、成り立っています。この場をお借りして感謝申し上げます。
(小児看護専門看護師 三輪 富士代)



Special thanks

2014年2月15日(土)に福岡ソフトバンクホークスの宮崎キャンプ、3月18日、19日にオープン戦、4月12日に公式戦へ、松田宣浩選手がにこスマ九州の子供たちと家族を招待してくださいました。



宮崎キャンプには、19人(経験者6人・きょうだい3人・保護者10人)が福岡・佐賀・大分・宮崎・鹿児島から参加しました。特別にベンチに入れていただき間近で練習の様子を観て、ブルペンでは松田選手との交流をすることができました。グラウンドなどで他の選手にも会い、5枚以上のサインをもらった子もいました。みんなにこにこでした。分刻みの練習の中ではありましたが、子どもたちに元気になってほしいという気持ちで温かく対応してくださった松田選手、また多岐に渡ってサポートしてくださった関係者の皆様にも心よりお礼申し上げます。

また、松田選手がたくさんの子どもの夢を叶えてほしいと購入した福岡ヤフオクドームのスーパーボックスにご招待いただきました。11家族が参加しました。迫力ある試合を観戦、そして3試合全て勝利で、花火も目の前に上がりました。ゆっくりくつろげる部屋でしたので、経験者同士遊ぶ時間も取れて仲良くなることもできました。そして、松田選手との交換ノートに、子どもたちがそれぞれ自分の夢を書き込みました。

きっと松田選手の熱い思いは、子どもたちの力になると思います。これからも、にこスマ九州の子どもたちは、松田選手に負けないうくらい精いっぱい頑張ることと思います。
(臨床心理士 白石 恵子)